

2 特別支援学級の運営

(1) 教育課程編成に関する届出

特別支援学級の教育課程を編成する場合、小学校及び中学校の学習指導要領に基づき作成します。しかし、特別支援学級は、通常の学級における教育では十分な教育効果をあげることが困難な児童生徒のために特別に編成された学級ですから、通常の学級の教育課程をそのまま適応することが必ずしも適切でない場合があります。

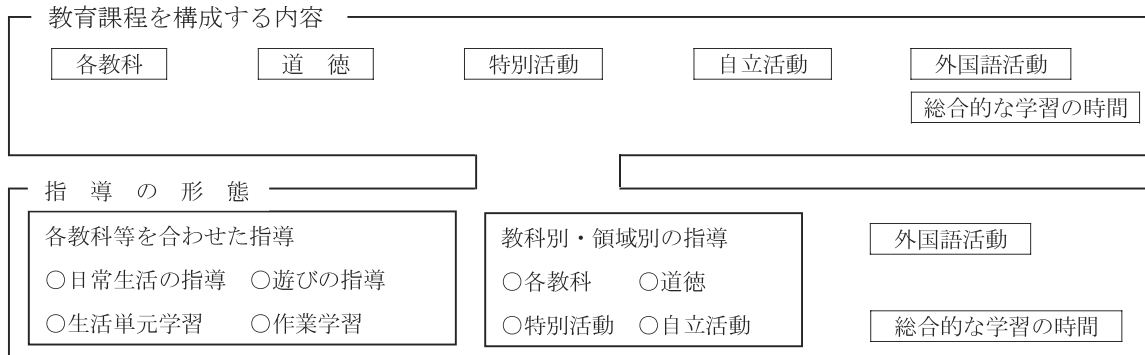
特別支援学級においては、それぞれの学級の実態や役割、そこで学ぶ児童生徒一人一人の障がいの状態や発達の程度に応じて特別の教育課程を編成することが、学校教育法施行規則第138条に規定されています。なお、特別の教育課程を編成する場合には、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領を参考にします。

(2) 教育課程を構成する内容と指導形態

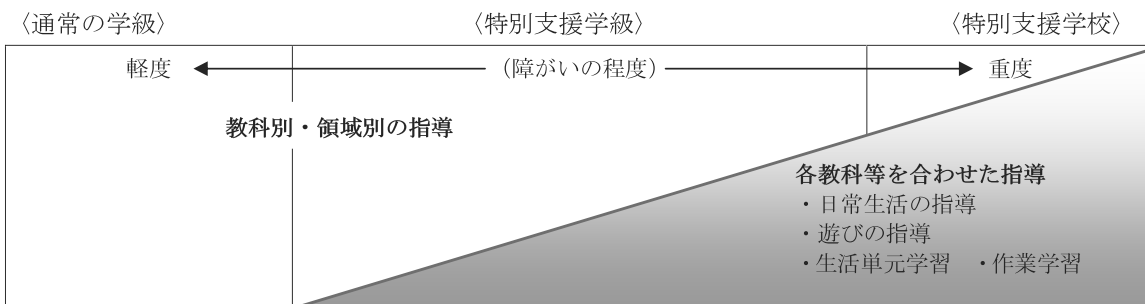
特別支援学級に在籍する児童生徒の実態や教育的ニーズに応じて適切に教育課程を編成して指導することが大切です。

教育課程を構成する内容は、各教科、道徳、特別活動、外国語活動、自立活動及び総合的な学習の時間です。ただし、特別支援学級においては、必要がある場合には「各教科に属する科目の全部又は一部」、さらには、「各教科、道徳、外国語活動、特別活動又は自立活動の全部又は一部」について合わせて授業を行うことができることが学校教育法施行規則第130条第2項で規定されています。

【各教科等を合わせた指導を行う場合の構造】



【指導の形態に占める割合】



* 各教科・領域の単位数は、児童生徒の実態に即しながら効果的かつ弾力的な配当を工夫します。

* 知的障がいのない単一の障がいの場合に、各教科等を合わせた指導はできません。ただし、教科を合わせた指導（国語と社会等）は可能であり、これは、通常の学級においても同様です。

(3) 教育課程編成に関する届出（B表－2の1）

- ・記入に際しては、教育課程を構成する内容（表面4 標準授業時数及び総授業日数等）を十分に検討し、指導の形態（裏面－再掲）のみを、記入するのではなく、両方を記入します。
- ・小学校、中学校ともに授業日数、時数は、学習指導要領及び各学校の状況に準じます。

知的障がいと自閉症・情緒障がい特別支援学級の両方を設置している場合には、それぞれの障がいの特性に応じた教育課程の編成となるよう各項目の標記等に留意してください。

【記入例：小学校 自閉症・情緒障がい特別支援学級】

【B表－2の1】 学校番号 平成 〇〇 年 〇〇 月 〇〇 日

障がい種別に作成し、()内には障がい種別名を記入します。

平成 〇〇 年 〇〇 月 〇〇 日
 学校名 〇〇〇〇
 電話番号 〇〇〇〇
 校長名 〇〇〇〇

（自閉症・情緒障がい）特別支援学級教育課程編成に関する届出

1 学級の教育目標
 個々の子どもの実態や特性に応じて、将来を豊かに生きることがするために必要な知識技能を身に付けさせ、社会に積極的に参加しようとする子どもを育てる。
 目標が複数ある場合は箇条書きで記入します。

2 本年度の重点
(1) 重点教育目標
 言葉を交わし、友達や先生、地域の方々と交わり、豊かな表現力を身につけるようにする。
 ・子どもたち一人一人の発達の状況を把握し、今持っている力を最大限に伸ばすとともに、困難さを克服、改善するために、自立活動を中心とした個別の指導計画を作成しながら指導に当たります。
(2) 指導の重点

各教科	児童の実態に応じて、学年又は下学年の目標を参照し、
道徳	豊かな心を持ち、自分の将来を主体的に考え、自
外国語活動	挨拶などの簡単なやり取りを覚え、具体的な場面で外
総合的な学習の時間	自ら課題に向かい、主体的に取り組む態度や課題を
特別活動	集団活動を通して、積極的な態度を養い、社会性や豊かな人間性を育む。
自立活動	障がいに基づく困難さを克服・改善するために、短期・長期目標を設定して取り組む。

○教育課程を構成する内容ごとに記入します。対象の学年が在籍していないなど、外国語活動や総合的な学習の時間を設定していない場合は、該当する項目の枠に斜線を入れてください。

3 教育課程編成上の留意事項
 ・児童の実態に応じて、交流可能な教科学習においては、通常の
 ・友達関係を深めるために、知的障がい学級と連携を取りながら

○各教科等を合わせた授業を行っている場合にも、どのような教科や内容やねらいを合わせて教育課程を編成しているか分かるように、記入します。
 ○同欄に各教科には、小学校あるいは参考とした特別支援学校の学習指導要領の教科名を記入します（小学校の教育課程に準じている場合は、生活科は1、2年生のみです）。

4 標準総授業時数及び総授業日数等（裏面の再掲に記入する場合）

各教科等	学年			標準総授業時数	標準総授業日数	標準総授業日数
	1	2	3			
各教科	国語	296	305	235		
	社会			70		
	算数	126	165	165		
	理科			85		
	生活	92	100			
	音楽	68	70	60		
	図画工作	68	70	60		
	家庭				60	55
	体育	98	95	95	95	90
	小計	(a)	748	805	770	805
道徳	(b)	34	35	35	35	35
外国語活動	(c)				35	35
総合的な学習の時間	(d)			70	70	70
特別活動	(e)	34	35	35	35	35
自立活動	(f)	34	35	35	35	35
標準総授業時数 (c～f) = A		950	910	945	980	980
週当たりの授業時数		25	26	28	28	28
年間総授業日数		206	206	206	206	203

特別支援学級の教育課程は、一人一人の障がいに対応し、自立活動を取り入れる必要があります。

※ 記入に当たっては、「諸届用紙の記入要領」を確認してください。

再掲（各教科等を合わせた指導を行っている場合のみ記入）			○ ○ ○ ○ ○					
指導の形態		学年	1	2	3	4	5	6
各教科等を合わせた指導	遊びの指導		60	60				
	日常生活の指導		70	70				
	生活単元学習		70	70				
	作業学習		25	35				
	小計 (g)		225	235				
教科別領域別の指導	教科別の指導	国語	160	175				
		社会			60	60	50	50
		算数	108	110	105	115	95	95
		理科			60	60	60	60
		生活	80	100				
		音楽	60	70	60	60	60	60
		図画工作	35	35	35	35	35	35
		家庭						
		体育	80	80	70			
		小計 (h)	523	570	560			
領域別の指導	道徳	34	35	35	35	35	35	
	特別活動	34	35	35	35	35	35	
	自立活動	34	35	35	35	35	35	
	小計 (i)	102	105	105	105	105	105	
外国語活動 (j)						25	25	
総合的な学習の時間 (k)				70	70	70	70	
標準総授業時数 (g~k)=A			850	910	945	980	980	980

○指導の形態で、各教科等を合わせた授業を行っている場合は、それぞれの内容ごとに年間の標準時数を記入します。

総合的な学習の時間は、4の「各教科別に記入した時数と一致します。」

5 行事の年間計画（交通機関等を利用する校外学習名及び、特別支援学級単独の宿泊研修等のみを記入）

月	日	行事名	月	日	行事名	月	日	行事名
4		歓迎会	8					
5		〇〇学級遠足	9			1		
6		校内宿泊学習	10		レインボーピック	2		レインボーフェスティバル
7			11		現地学習 水族館に行こう	3		

各学年の標準総授業時数は、4の「各教科等」に記入した標準総授業時数と一致します。

交通機関を利用する校外学習や特別支援学級で行う宿泊研修についてのみ記載してください。交通機関等を利用する校外学習は、C表2-2 特別支援学級単独の宿泊研修等については、D表1-2を使用します。

【記入例：中学校 知的障がい特別支援学級】

【B表-2の1】

学校番号

平成 ○○ 年度

(知的障がい)特別支援学級教育課程編成に関する

平成 ○○ 年
 学校名 ○○○
 電話番号 ○○○
 校長名 ○○○

障がい種別に作成し、
 () 内には障がい種
 別名を記入します。

1 学級の教育目標

- ・日常生活に必要な知識や技能を身に付け、進んで生活に生かそうとする力を育てる。
- ・見通しをもちながら、最後までやりぬく力を育てる。

目標が複数ある場合は箇条書きで記入します。

2 本年度の重点

(1) 重点教育目標

生徒理解を深め、個々の生徒のニーズに応じた一貫性のある指導を進めていく。

(2) 指導の重点

各教科	基礎的な学習や日常生活の
道徳	人とのかかわりを大切に、
外国語活動	
総合的な学習の時間	体験的、問題解決的な学習を通して主体的な学習態度を育む。
特別活動	集団活動における、決まりや役割をかかわりう場を通して学ぶ。
自立活動	個々の困難さを克服するために、教育活動全般にわたり、計画的に取り組む。

○教育課程を構成する内容ごとに記入します。
 ○中学校では、外国語活動は、斜線を引きます。外国語に取り組んでいる場合は、各教科に時数が入ります。

3 教育課程編成上の留意事項

- ・生徒の実態を的確に把握し、個に応じた指導の充実を図る。
- ・学校生活の中で学んだことが、生活の中で生かされるよう、PDCAのサイクルを重視しながら進めていく。

4 標準総授業時数及び総授業日数等(裏面の再掲に記入する場合)

各教科等	学年			
	1	2	3	
各教科	国語	140	140	140
	社会	95	95	95
	数学	105	105	105
	理科	95	95	95
	音楽	45	45	45
	美術	45	45	45
	保健体育	105	105	105
	技術・家庭	70	70	70
	外国語	140	140	140
	小計	(a)	840	840
道徳	(b)	35	35	35
外国語活動	(c)			
総合的な学習の時間	(d)	70	70	70
特別活動	(e)	35	35	35
自立活動	(f)	35	35	35
標準総授業時数	(a+f)	1015	1015	1015
週当たりの授業時数		29	29	29
年間総授業日数		205	205	205

○各教科等を合わせた授業を行っている場合にも、どのような教科や内容やねらいを合わせて教育課程を編成しているか分かるように、記入します。
 ○同欄に各教科には、中学校あるいは参考とした特別支援学校の学習指導要領の教科名を記入します(中学校では特別支援学校の指導要領を参考にしても生活はありません。)

特別支援学級の教育課程は、一人一人の障がいに対応し、自立活動を取り入れる必要があります。

※ 記入に当たっては、「諸届用紙の記入要領」を確認してください。

II. 特別支援学級及び通級指導教室における教育

再掲（各教科等を合わせた指導を行っている場合のみ記入） ○ ○ ○ ○ ○

指導の形態		学年	1	2	3	4	5	6
各教科等を合わせた指導	遊びの指導							
	日常生活の指導		65	65	65			
	生活単元学習		70	70	70			
	作業学習		80	80	80			
	小計 (g)		200	200	200			
教科別領域別の指導	教科別の指導	国語	140	140	140			
		社会	45	45	45			
		数学	120	120	120			
		理科	45	45	45			
		音楽	45	45	45			
		美術	45	45	45			
		保健体育	100	100	100			
		技術・家庭	50	50	50			
		外国語	35	35	35			
		小計 (h)		640	640	640	0	
	領域別の指導	道徳	35	35	35			
特別活動		35	35	35				
自立活動		35	35	35				
小計 (i)		105	105	105	0	0	0	
外国語活動 (j)								
総合的な学習の時間 (k)		70	70	70				
標準総授業時数 (g~k)=A		1015	1015	1015	0	0	0	

○指導の形態で、各教科等を合わせた授業を行っている場合は、それぞれの内容ごとに年間の標準時数を記入します。

総合的な学習の時間は、4の「各教科別に記入した時数と一致します。」

5 行事の年間計画（交通機関等を利用する校外学習名及び、特別支援学級単独の宿泊研修等のみを記入）

月	日	行事名	月	日	行事名	月	日	行事名
4		歓迎会	8					
5		〇〇学級遠足	9		現場実習	1		
6		宿泊学習	10		レインボーピック	2		レインボーフェスティバル
7			11		現地学習	3		

各学年の標準総授業時数は、4の「各教科等」に記入した標準総授業時数と一致します。

○交通機関を利用する校外学習や特別支援学級で行う宿泊研修についてのみ記載してください。
 ○交通機関等を利用する校外学習はC表2-2、特別支援学級単独の宿泊研修等については、D表1-2を使用します。